

道東ブロックトレセン U-12

釧路開催 報告書

期日 平成 23 年 9 月 25 日

場所 サブグラウンド

1 参加選手 (20名)

佐藤聖椰、岡田良太、高橋海斗、津田和哉、本間柊人、山崎梧依、山本涼太 (T-WEST) 西澤雄太、金子涼太、山本昂太(ドリーム) 橋本海翔、山田哲大 (コンバット) 土井雅也、廣田優太 (遠矢) 浅井一樹、(SSM) 田村史人 (鳥取) 八重樫健吾 (朝陽) 川原大輝 (フォルテ) 野瀬龍世、川端一輝 (R シュペルブ)

※ 野瀬、川端、1 試合終了後早退

※ 荒井、鈴木、(愛国) チーム遠征の為欠席

2 スタッフ (6名)

後藤雅宏、高橋雄一、本間彰、武田広平、3 種 八城、飯塚

3 はじめに

今回の BTC は、3 種のコーチに帯同してもらい、冬季からの引継ぎがスムーズに行える為の最適な大会となった。

それと、目標としていた先月の全道少年少女選抜が終わり、選手のモチベーションの低下と、夏季のトレセン終了後の BTC 開催との事で、トレセンレベルの高いパフォーマンスを出すのが難しい大会ともなった。

しかし選手達には、今迄の TR の積み上げを試す絶好の大会である事を伝え、試合に臨ませた。

* フォーメーションは 3-3-1 で、後方からの攻撃参加を意識させた。

4 対戦結果

1、 対 根室	0-2 ●	6、 対 根室 (交流)	2-1 ○
2、 対 網走	0-0 △		
3、 対 網走 (交流)	0-2 ●		
4、 対 十勝	0-5 ●		
5、 対 十勝 (交流)	0-2 ●		

5 成果と課題

<成果>

- GKを含めたビルドアップ
⇒ GKを含めた攻撃の組み立てが当たり前のように選手達に浸透していた。簡単に前線にボールを放り込むのではなく、プライオリティー（優先順位）を意識しながらボールを失わずに繋げて行こうと言う意識が強くでていた。

- ボールを奪う
⇒ グループでボールを奪う意識が随所にでていた。
守備のプライオリティーを意識し、インターセプトを狙うプレーが全てではないが、随所に現れていた。

- 崩しの意識
⇒ プレッシャーの緩いサイド一辺倒の攻撃はほとんど無くなり、攻撃のプライオリティーを意識し、効果的に相手DFを崩そうとしていた。

<課題>

- 観る、観ておく、観ている
⇒ ほとんどの選手に言える事だが、観ると言う習慣が無いのが現状だ。
ボールの移動中に観る事が出来ない為、相手のプレッシャーがきつくなると不用意なバックパスが増えてしまい、自陣でのプレーが長く続く悪循環になってしまった。
これは、ボールに関与しているAとBの関係だけではなく、関与していないCの選手達にも言えることだ。
常にボールの有る所しか観てない為、ボールを貰う為の良い準備（ポジショニング）ができず、マークされてる相手にインターセプトされる場面が多々見られた。
- 観ると言う事は習慣化しなければいけない事であり、トレセンダーだけでは改善は困難である。チーム単位で取り組むべき課題と考える。

● 駆け引き

- ⇒ 相手の裏のスペースを突く動きが少なく、くさびに入る事が優先順位となっていた。
- 相手の裏を狙うから、くさびのスペースが出来る事を徹底的にトレーニングで改善したい。

● 1 対 1

- ⇒ アプローチの動き出しが遅い為、相手を自由にする場面が数多く見られた。十勝との対戦では、個のレベルの高い選手が多く、簡単に1発で抜かれ失点に繋がるシーンがあった。
- トレセンの試合ではどこの地区との対戦でも、いくら足元に技術があっても、戦えない選手は通用しないことを日々のトレーニングで伝えたい。

● パスの質

- ⇒ 方向、強さ、タイミングの観点から、全てにおいて質が落ちる。プレッシャーの薄い場面でも、狙った所に蹴る技術が低い。
- これらは日々の反復練習で身に付くものであり、チーム単位で取り組む課題である。

6 全体講評

今回の結果は、はじめにも述べたが、選手のモチベーションの低下と、夏季トレセン終了後の大会であることから、選手のパフォーマンスの低下は否めない。しかし、他地区も同じ条件である事から、この結果が彼らの実力であることを真摯に受け止めなければ彼らのレベルアップは無いと実感する。

実際に、根室地区のレベルアップには驚きを感じた。十勝に関しては、個のレベルにかなりの差がついているのが現実である。

これは私見になるが、6年生になってチーム内での天井現象が、選手達のレベルアップを阻害している原因と考える。育成年代である彼らにとって、これからの長いサッカー人生の通過点でしかないと考えれば、小学6年生という区切りは、非常にデリケートな問題と考える。

しかしながら、今回 NTC に呼ばれた2人に関しては、十勝地区と比較しても、高いパフォーマンスを見せていた。

これはサバイバル合宿での、レベルの高い相手とのトレーニングが、彼らを成長させたものと思われる。

我々地区スタッフとしては、そのような場に沢山の選手を送り出さなければいけないと痛感した。

最後に、この釧路開催に協力してくれた3種スタッフの皆様と、各チーム関係者の皆様、日々の練習をさせてくださった保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今後ともトレセン活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

文責： 4種技術部 高橋雄一